

巻取りとて五尺はれはくさぬして殊事なまれば今又追とも云
されは是れも我ながらて連年して煙をりて小物外にも出
して是れは後ちれは六尺(出)ては血示の大吼をてれはささく
馬を解してりるに口命とて門を登り人を見ては板屋の
一八(お)好まう人ううとてはしりては御くは成してを直と向
う人言てまうは個をれは狼のまううとてはしりてまう大に驚
き板屋の人とれを元の山に推せりては後女犯車に向殺奉狼の皮
と膚を中しては殺も入て林林の毛も猫虎より和の物よは
多う狼の声せしは忽ち毛をくくくしては計のわくうしとて
盗賊のへは八同く毛をくくくしては計のわくうしとて

八百比丘尼

翁葉集より坂と大嬢彌家持云云人者能若狭道の後限の
後毛將念君とては松葉派よ八二之堂は後限ふ念ふ此持は
を名とては山分移り八百比丘尼の洞有り和宗寺とては上は又
秋のり八百比丘尼の号は老くは股とてはくむの帽をさる

自ら八蓮花板の物と持てはるは像之又持あは垂髪をては比丘尼不
持の境正宗は降太刀駒角天狗九のりは比丘尼の父は奉の道備
といひ一人のよは縁記をんくは初は五代根といひ今八合根
唯神と宗し二板は板橋町の十字街に大石佛有りまうに堪
りて大同二年八百比丘尼薨えと彫刻して今よ文字鮮明に陰
板のまうくは岩井傳といひは七把の大杖も古(表)後より
人真と食りありといひは尼有りて極て八百歳と極て又まては尼
んとてはまうとては有る八百比丘尼の杖といひは本古来の強
りては八合國今溪の測湯材といひくはもろくは後者といひは
来りは位成日里人といひは極きありは後以食と謂ふとては人
取らり真とては後とては一の女は極き合ふとては一人
を真の物とありと極よとて極の極く極て忘りては毒た
の極と極くんとて極て食りりては二日極ては同りては志りて
しりては警子居るりては毒の回會とては附味は其毒のわくりり
しりては食り極ては毒とては死しては毒のわくりては毒を

